

未来の礎となる力の育成

【予算額合計 1,939,597千円】 学力向上推進PT(224-2931) 教職員課(224-2958) 小中学校教育課(224-2963) ※2月補正予算含みベース 高校教育課(224-3002) 社会教育・文化財保護課(224-3322) 保健体育課(224-2973、2969)

知識・技能、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」を育むため、一人ひとりの学習内容の理解と定着を図る取組を進めます。「豊かな心」の育成については、考え、議論する道徳の授業づくりに取り組むとともに、読書習慣定着のため、学校図書館の活用、家庭での読書の推進などに取り組みます。「健やかな身体」の育成については、運動に親しむ習慣の定着と体力の向上や、中学校の休日部活動の円滑な地域移行を進めるとともに、生涯にわたり健康で充実した生活を送っていただけるよう、健康教育や食育に取り組みます。

確かな学力の育成

学力向上推進事業 【予算額:22,477千円】

- ・みえスタディ・チェックをCBT(Computer Based Testing)で実施。学習状況等に関する質問紙調査を実施し、個に応じた指導や授業改善を促進
- ・学力向上アドバイザー(3名)を派遣し、校長のマネジメントへの助言や、教職員の授業指導等への支援



少人数教育推進事業 【予算額:1,383,055千円】

- ・小学校1、2年生の30人学級(下限25人)(定数40人)
- ・小学校3、4、5年生の35人学級(定数150人)
※国を先取りする形で、R5から5年生でも実施
- ・中学校1年生の35人学級(下限25人)(定数55人、非常勤30人)
※実情に応じて2、3年生への振替可
- ・習熟度別指導やチーム・ティーチングなどの少人数指導のための教員配置(定数28人、非常勤154人)

(一部新)小中学校指導運営費 【予算額:73,168千円】※R4年度2月補正予算含みベース

- ・補充的な学習支援や授業で教職員の補助を行う学習指導員を配置
- ・ICTのセキュリティやコンテンツに係る助言、活用に向けたサポート

豊かな心の育成

(一部新)道徳教育総合支援事業 【予算額:4,716千円】

道徳教育アドバイザーを派遣し、考え、議論する道徳の指導方法等の指導、助言

就学前教育の質向上事業 【予算額:38,853千円】※R4年度2月補正予算含みベース

- ・スーパーバイザー、アドバイザーを市町等へ派遣し、研修支援等を実施
- ・国事業を活用し、公立幼稚園での保健衛生用品の購入やICT環境整備について市町へ補助

(一部新)高校芸術文化祭費 【予算額:48,781千円】

R5近畿高等学校総合文化祭(三重大会)兼みえ高文祭の開催



(一部新)子どもと本をつなぐ環境整備促進事業 【予算額:5,898千円】

- ・読書活動推進計画に基づく読書活動の推進、家読(うちどく)やビブリオバトルの普及啓発
- ・学校図書館を活用した探究的な学びや授業づくりのため、モデル高校で図書館をリニューアル

- ・モデル市町で本に親しむための学校図書館の工夫や、教科と関連した読書活動等への助言・支援

健やかな身体の育成

(一部新)みえ子どもの元気アップ部活動充実事業 【予算額:143,208千円】※R4年度2月補正予算含みベース

○中学校における休日部活動の地域移行

- ・市町が設置する協議会、コーディネーター配置、運営団体における指導者配置など、地域移行に向けた各市町の取組を支援
- ・指導者育成のため、必要な資質やガイドライン等を学ぶ研修会を実施



○部活動指導員の配置

- ・運動部活動指導員の配置153名(中学校113名、高校40名)
※中学校の文化部配置分19名(他事業)を含めると、計172名の配置
- 運動部活動サポーターの派遣50名(高校配置)

部活動指導員 対前年度
50名増(約1.4倍)

○効率的・効果的な高校の運動部活動の推進

- ・デジタル技術を活用した専門家のリモート指導を試行的に実施

みえ子どもの元気アップ体力向上推進事業 【予算額:4,039千円】

各学校の状況に応じた1学校1運動の推進



運動部活動支援事業 【予算額:172,653千円】

中学校の全国大会、高校の全国・ブロック体育大会への出場に要する旅費を負担

(一部新)学校保健総合支援事業 【予算額:2,905千円】

養護教諭の資質能力向上への支援や業務代替を行うため、経験豊富な人材を派遣



県立学校児童生徒等健康管理事業(一部) 【予算額 39,844千円】 (県立学校消毒液等配備事業) ※R4年度2月補正予算

新型コロナ対策として、県立学校(75校)において消毒液等を配備

未来を創造し社会の担い手となる力の育成

【予算額合計 2,106,046千円】※2月補正予算含みベース
高校教育課(224-3002)、教育政策課(224-2951)

変化が激しく予測困難な時代にあっても、三重の子どもたちが持続可能な社会を創る人材として活躍していけるよう、社会とのつながりを意識した探究的な学習などを通じ、創造力や表現力、協働する力などを育むとともに、オンラインも活用して学校の枠を越えた学びを推進します。また、就職を希望するすべての高校生の就職実現に向けた支援を充実します。

自律した学習者を育てる学びの推進

キャリア教育・就職支援

(新)自律した学習者を育てる三重県モデル構築事業 【予算額 7,048千円】

【これからの時代に求められる学び】

社会とのつながりを意識しながら、高校生が学ぶ意義を理解し、自分の生き方や進路について主体的に考え、行動していくことのできる力を育む学び

【学びの実践例】

- ・教科横断的なSTEAMプログラムを活用した学び
- ・地域を題材とした課題解決型学習
- ・海外高校生との交流やデータサイエンス講座等を組み合わせたグローバル・リーダー育成プログラム

【三重県モデル】

- ・企業や大学等の協力を得て、社会とのつながりを意識した学習を実施し、社会や産業界の変化を踏まえ学習内容をアップデート
- ・学習の前後で、創造力や表現力、他者と協働する力などの社会で求められる資質・能力や、自己肯定感やチャレンジする意欲などの変容を把握
- ・各学習の「ねらい、内容、効果等」をまとめ、育む資質・能力との関連を示し、自律した学習者をめざす教育活動を「三重県モデル」として構築
- ・各校では本モデルを効果的に活用して、系統的なキャリア教育を実践



(一部新)未来へつなぐキャリア教育推進事業 【予算額 35,395千円】

- ・地域企業の情報や仕事の魅力を伝え、求人確保や就職相談等の就職支援を行う就職実現コーディネーター(12名)を配置
- ・支援が必要な生徒について、さまざまな関係機関の協力を得て、就労に関わる会議を県内5か所で新設し、生徒の状況共有や支援方策の協議を行うとともに、早い段階からの進路相談やソーシャルスキルトレーニング、職場実習などを実施



普通科の学びの変革・ICTの活用

高等学校学力向上推進事業 【予算額 57,071千円】※R4年度2月補正予算含みベース

- ・国事業を活用して、普通科のモデル校で、分野を横断して学ぶ学際的な教育プログラムの実践研究
- ・ICTの効果的な活用を進めるための支援員を派遣、ICTによる授業で必要な著作権料を負担

グローバル教育の推進

世界へはばたく高校生育成支援事業 【予算額 4,478千円】

- ・レベル別英語ディベートセミナーの実施
- ・高校生の留学支援
- ・オンライン海外交流の実施
- ・三重県高等学校科学オリンピック大会の開催

職業教育の充実

(一部新)地域とつなぐ職業教育充実支援事業 【予算額 46,511千円】

- ・老朽化している実習設備の更新
- ・すべての県立農業高校(5校)でGAP教育を推進
- ・看護師、介護福祉士の育成のための実習を実施

実習船建造事業 【予算額 1,952,212千円】 ※R4年度2月補正予算含みベース

令和5年度末竣工に向けて、新たな実習船の建造工事を実施



人口減少に対応した多様な学びの推進

オンラインとリアルによる学校の枠を越えた学び推進事業 【予算額 3,331千円】

- ・通信制課程で、オンラインでの交流や地域での探究活動
- ・全日制課程で、遠隔授業のモデル構築や、複数の学校をつないだ放課後講座や大学進学講座

特別支援教育の推進

【予算額合計 1,774,584千円】 ※2月補正予算含みベース
特別支援教育課（224-2961）、学校経理・施設課（224-2955）

特別な支援を必要とする子どもたち一人ひとりの学びを支える教育を推進するため、パーソナルファイルを活用して支援情報の確実な引き継ぎを進めます。特別支援学校において、医療的ケアが必要な子どもと保護者への支援や、小中学校との交流及び共同学習を進めるとともに、高等学校での通級による指導を拡大します。発達段階に応じた組織的なキャリア教育を推進するとともに、生徒の就労に向けた支援を拡充します。さらに、特別支援学校の狭隘化や老朽化に対応するため、移転や増築に向けた取組を進め、子どもたちの学ぶ環境を整えます。

特別支援教育の推進

◇早期からの一貫した教育支援体制整備事業 [予算額 21,280千円]

○早期からの一貫した教育支援体制を整備

- ・ パーソナルファイルの活用促進と、支援情報の円滑な引き継ぎ
- ・ 発達障がい支援員4名による高等学校への巡回相談
- ・ 通級による指導担当教員等の専門性の向上
- ・ 特別支援学校のセンター的機能による支援
- ・ 市町教育委員会と連携した就学支援
- ・ 特別支援学校に在籍する外国人児童生徒等への支援
(通訳・翻訳を行う外国人児童生徒支援員を配置)
- ・ 高等学校での通級による指導の充実と実施校の拡大
- ・ 交流及び共同学習の充実
- ・ 「副次的な籍」の実施拡大に向けた取組



◇(一部新) 特別支援学校メディカル・サポート事業 [予算額 23,475千円]

○医療的ケアを安全に実施するための体制を整備

- ・ 実施校：特別支援学校8校
- ・ 看護師免許を有する職員と教員が連携して医療的ケアを実施
- ・ 医療的ケアのための基本研修および実地研修の実施
- ・ 指導医等による巡回指導および相談
- ・ 保護者の負担軽減のため、看護師が登校時の福祉車両等に同乗し、医療的ケアを行う取組を試行的に実施

進路希望の実現

◇(一部新) 特別支援学校就労推進事業 [予算額 6,398千円]

○外部人材を活用した支援

- ・ テレワーク支援員を新たに配置し、ICTを活用した在宅就労など、新しい働き方や技能に対応した実習先や就職先を開拓
- ・ 生徒一人ひとりに合った業種・業務と支援方法を企業に提案する形の職場開拓（キャリア教育サポーター3名配置）

○特別支援学校版キャリア教育プログラムに基づく取組の推進

企業等と連携した技能講習、技能検定を実施（清掃、看護・介助業務補助）

施設の狭隘化・老朽化等への対応

◇特別支援学校施設建築費 [予算額 1,182,932千円] ※R4年度2月補正予算含みベース

○盲学校・聾学校の校舎等建築

- ・ 城山特別支援学校の隣地へ移転するため、校舎建築に必要な木材調達や建設予定地の埋蔵文化財調査等を実施
- ・ 盲学校・聾学校・城山特別支援学校の統合寄宿舍の建築工事

○松阪あゆみ特別支援学校の校舎増築に係る基本設計

◇特別支援学校学習環境等基盤整備事業 [予算額 48,267千円]

盲学校、聾学校、城山特別支援学校の統合寄宿舍の整備に伴い必要となる備品等を整備

スクールバスの増便

◇特別支援学校スクールバス等運行委託事業 [予算額 492,232千円]

特別支援学校のスクールバスを運行し、登校時の密を避けるため11台を増便



いじめや暴力のない学びの場づくり

【予算額合計 481,262千円】

小中学校教育課(224-2963) 生徒指導課(224-2332) 研修企画・支援課(226-3516)
研修推進課(226-3571)

道徳教育や人権教育をはじめ教育活動全体を通じて、子どもたちに「いじめをしない、させない心」や社会性を育むとともに、「三重県いじめ防止条例」に基づく社会総がかりの取組を進めます。学校において、相談しやすい環境づくりや正確な認知を進めるとともに、いじめに関する情報を即座に共有できる取組などを通じて、いじめ事案への迅速かつ適切な対応に取り組みます。

（一部新）道徳教育総合支援事業（再掲） 【予算額 4,716千円】

- いじめ防止の指導の要点や授業実践例をまとめた指導者用補助資料を作成。小中学校の道徳教育推進教師への研修や、校長へのカリキュラムマネジメントに係る研修を実施
- 小中学校のモデル校にアドバイザーを派遣し、いじめ防止の系統的な道徳に係る年間指導モデルを構築



（一部新）いじめ対策推進事業 【予算額 28,664千円】

○「いじめをしない、させない心」の育成

社会性や規範意識を高めるため、小学校高学年の児童への弁護士いじめ予防授業を実施

○教職員の資質向上

いじめ問題を担当する教職員に、いじめのとらえ方や認知した時の初期対応、児童生徒や保護者対応の留意点を学ぶ実践的な研修を実施

○いじめに関する情報のデジタル化

学校で認知したいじめの内容や児童生徒の状況、対応状況等の情報をデジタル化し、関係機関がリアルタイムに共有できるシステムを構築

○いじめ対策アドバイザーの派遣

複雑ないじめ事案や認知へ至っていない事案について、学校の対応の検証や効果的な対応策を助言するアドバイザー（2名）を県立学校に派遣

○ネット上のいじめへの対応

不適切な書き込みを検索するネットパトロールを年間通して実施。不適切な書き込みを発見した場合に、その内容を投稿できるアプリ「ネットみえ〜」を運用



スクールカウンセラー等活用事業 【予算額 435,365千円】

○スクールカウンセラー（臨床心理士等）の配置拡充

- ・全小中学校（149中学校区）
児童生徒数、小学校数、不登校児童生徒数の多い中学校区への配置時間の増
- ・全県立学校（高等学校56校、特別支援学校18校）
定時制3校への配置時間の増、特別支援学校へ引き続き配置
- ・全教育支援センター（市町：20か所（他事業分も含む）、県立：1か所）
市町：通級児童生徒数等に応じて配置時間の増 県立：週あたり配置日数の増

○スクールソーシャルワーカー（社会福祉士等）の配置拡充

- ・小中学校（29市町に配置。学校数が多い市町は複数中学校区を拠点に活動）
児童生徒数、学校数の多い市町の配置時間の増
- ・県立学校（高等学校24校を拠点に活動）
定時制3校への配置時間の増、新たに特別支援学校に配置
- ・全教育支援センター（市町：20か所（他事業分も含む）、県立：1か所）
市町：通級児童生徒数等に応じて配置時間の増 県立：年間を通じて配置



【スクールカウンセラー】

R5:329,872千円（各事業合計）

対前年度予算比：+20,600千円/+6.7%

※R2予算比：+89,690千円/+37.3%

【スクールソーシャルワーカー】

R5:112,167千円（各事業合計）

対前年予算比：+35,469千円/+46.2%

※R2予算比：69,395千円/+162.2%（約2.6倍）

【教育相談員】
R5:25,097千円

教育相談事業（一部）【予算額 10,663千円】 （SNSを活用した相談事業）

多言語でも相談できる「子どもSNS相談みえ」を実施



（一部新）いじめ対応に係る教職員研修 （教職員研修事業、教育相談事業の一部）

【予算額 1,854千円】

- いじめの定義の確実な理解や、解消に向けた組織的対応等、対応力向上を図る法定・悉皆研修を実施
- いじめを生まない学級づくりやいじめへの対応について学ぶ専門研修を実施

誰もが安心して学べる教育の推進

【予算額合計 4,097,799千円】

生徒指導課(224-2332)、教育財務課(224-2940)、小中学校教育課(224-2963)、高校教育課(224-3002)、特別支援教育課(224-2961)、教育総務課(224-3301)

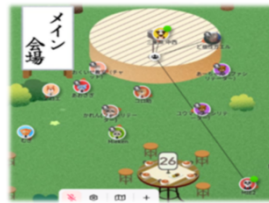
新たに不登校総合支援センターを設置して、学校への支援や相談体制を充実するとともに、高校段階で不登校等の状況にある子どもたちへの支援や、オンラインも含めた交流の場の提供など、不登校支援を充実します。外国人児童生徒が社会的に自立できる力を身につけられるよう、日本語指導や将来を見通した進路選択のための支援を行います。義務教育段階の学び直しを行う夜間中学については、県立での設置・開校に向けた取組を進めます。あわせて、災害時の学校を支援する体制の整備や防災教育に取り組みます。

不登校児童生徒への支援

(一部新)不登校対策事業 【予算額 53,947千円】

新たに不登校支援班を設置し、不登校総合支援センターを運営!

- 要因や背景が多様化・複雑化し、年々増加している不登校児童生徒に、より効果的で一人ひとりに応じた支援を進めるため、不登校総合支援センターを設置して以下の取組を推進
- ・各学校への支援、多様な活動やオンラインを含めた交流の場の提供、保護者も含めた相談の充実、福祉等の機関や民間団体との連携等を推進
- ・新たな取組の一つとして、県立教育支援センターを設置し、高校段階の不登校生徒や高校中途退学者に、体験活動や交流の場の提供、学習支援・自立支援、カウンセリングを実施
- ・市町の教育支援センターにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、専門的支援を行うとともに、アドバイザーの助言を得た訪問型支援
- ・ストレスや不安への受容力を高めるレジリエンス教育や、スクリーニングの手法を活用して、潜在的に支援を要する児童生徒への早期の対応
- ・フリースクール等が行う不登校児童生徒の体験学習等の費用を支援
- ・不登校の要因や背景、時期、期間等に応じた効果的な支援策を検討する協議会を新たに設置



メタバース(仮想空間)を活用したオンライン交流

学びの継続への支援

高校生等教育費負担軽減事業 【予算額 3,465,237千円】

教育費負担の軽減のため、就学支援金や奨学給付金等を支給

地域と学校の連携・協働体制構築事業(一部) 【予算額 5,370千円】

地域未来塾など放課後等に補充的な学習支援を行う市町へ補助

小中学校指導運営費(一部)(再掲) 【予算額 60,224千円】

補充的な学習支援や授業で教職員の補助を行う学習指導員を配置

スクールカウンセラー等活用事業(再掲) 【予算額 435,365千円】

カウンセラーやソーシャルワーカーを拡充し、貧困をはじめとする子どもたちの課題に対して、関係機関と連携した支援

外国人児童生徒教育の推進

社会的自立をめざす外国人生徒支援事業 【予算額 13,212千円】

学習支援や進路指導を行う専門員4名、日本語指導アドバイザー1名を県立高校に配置

未来へつなぐキャリア教育推進事業(一部)(再掲) 【予算額 7,360千円】
(高校生就職実現事業(外国人生徒等対応分))

外国人や障がいのある生徒に、きめ細かな相談や求人開拓等の重点支援を行う就職実現コーディネーター(5名)を配置

早期からの一貫した教育支援体制整備事業(一部)(再掲)
(特別支援学校外国人児童生徒の学校生活充実事業) 【予算額 2,788千円】

通訳・翻訳を行う外国人児童生徒支援員(1名)を配置

(一部新)多文化共生社会のための外国人児童生徒教育推進事業 【予算額 39,284千円】

- R7開校に向けて、先行事例の調査研究、学習内容等の検討、生徒募集の広報活動
- 施設設備の整備(R6)に向けた設計業務
- 夜間学級体験教室「まなみえ」を継続実施

○外国人児童生徒の受入れや日本語指導・適応指導に係る市町の取組への財政的支援

○学習支援等を行う外国人児童生徒巡回相談員を増員、オンラインを活用した日本語指導を実施

防災教育の推進

学校防災推進事業 【予算額 12,186千円】

- 防災ノートを活用した学習
- 体験型防災学習等の支援
- 学校防災リーダー等研修



通学路の安全確保

学校安全推進事業 【予算額 2,826千円】

点検結果をふまえ、対策必要箇所の改善を促進

学びを支える教育環境の整備

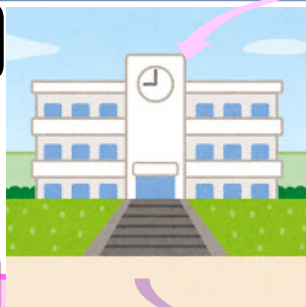
【予算額合計 5,594,481千円】
 小中学校教育課(224-2963) 研修推進課(226-3571) 教職員課(224-2959) 教育総務課(224-3008)
 高校教育課(224-3002) 学校経理・施設課(224-2955) 教育政策課(224-2951)
 社会教育・文化財保護課(224-3322, 2999, 3328)

学校・家庭・地域が一体となった教育活動を進めるため、コミュニティ・スクールの拡充に向けた取組を進めます。県立高等学校活性化計画に基づき、各校の学科や課程の特性を生かした特色化・魅力化の取組を進めるとともに、地域の活性化協議会において、高等学校の学びと配置のあり方について丁寧に協議を進めます。教職員の資質向上を図るため、経験年数や職種に応じた研修を計画的に実施するとともに、効果的な教育活動と働き方改革を推進するため、専門人材や地域人材の配置を拡充します。また、県立学校の長寿命化計画に基づく老朽化対策やトイレの洋式化を着実に進めます。地域の中で子どもたちを健やかに育む環境づくりを推進するとともに、文化財を将来にわたって守り伝え、活用されるための取組を進めます。

◇地域とともにある学校づくり

(一部新)地域と学校の連携・協働体制構築事業(一部再掲) 【予算額 18,680千円】

- ・「地域未来塾」などの地域学校協働活動に係る経費の補助
- ・サポーターを市町や学校に派遣し、コミュニティ・スクールの拡充や地域学校協働活動の充実を図るための指導・助言
- ・中学校の休日文化部活動の地域移行に係る市町へ支援



◇社会教育の推進と地域の教育力の向上

(一部新)社会教育推進体制整備事業 【予算額 2,114千円】

- ・地域と学校をつなぐコーディネーター資質向上講座を実施
- ・博物館法に改正に伴う審査登録を実施

鈴鹿青少年センター費 【予算額 1,925,420千円】

- ・PFI事業契約に基づく施設改修の経費を負担
- ・令和6年度のリニューアルオープンに向けた準備



◇教職員の資質向上と働き方改革の推進

(一部新)教職員研修事業(一部再掲) 【予算額 46,581千円】

主体的・対話的で深い学びの授業改善につながる研修や、いじめへの対応や不登校支援に関する研修を実施



学校における働き方改革推進事業 【予算額 329,788千円】

引き続きすべての公立学校にスクール・サポート・スタッフを配置

◇高校の特色化・魅力化

教育改革推進事業 【予算額 10,982千円】

- ・本県教育の今後のあり方について、幅広い視点から検討する教育改革推進会議を開催し、新たな「三重県教育ビジョン(仮称)」を策定
- ・地域協議会を開催し、各地域における高校の活性化や、今後の学びと配置のあり方を協議

高等学校学力向上推進事業(一部)(再掲) 【予算額 5,600千円】

普通科の新たな教育プログラムに係る実践研究

オンラインとリアルによる学校の枠を越えた学び推進事業(再掲) 【予算額 3,331千円】

- ・通信制課程:オンラインでの交流や探究活動
- ・全日制課程:遠隔授業のモデル構築や、複数の学校をつないだ放課後講座や大学進学講座

◇文化財の保存・活用・継承

地域文化財総合活性化事業 【予算額 90,000千円】

国・県指定等文化財の所有者等が行う文化財修復等の保存事業を支援



世界遺産熊野参詣道・無形文化遺産保存管理推進費 【予算額 854千円】

- ・文化庁や近隣県と連携した取組の実施
- ・市町が実施する追加登録候補資産の学術調査について、審議会設置や市町への技術的支援

(新)未来へ伝えるみえのお祭りアーカイブ事業 【予算額 4,922千円】

- ・担い手不足解消のため、祭り等の魅力を伝える映像記録の作成、既存映像記録のデジタル化
- ・子どもたちが祭りを体験・取材する機会を創出
- ・映像記録や、子どもたちの取材記事を集めたサイトで公開し、地域の文化財の魅力を発信



三重の文化・歴史を引き継ごう!新しい学びの機会創出事業 【予算額 801千円】

文化財に関わっていくきっかけづくりとして、遺跡発掘に関わる体験講座等を実施

教育環境の整備

(一部新)学校情報ネットワーク事業 【予算額 322,648千円】

- ・県立学校における業務環境をクラウド化
- ・定期テスト等の採点業務の効率化や、生徒の理解度に応じた指導につなげるため、県立高校に自動採点システムを導入

情報教育充実支援事業 【予算額 264,743千円】

県立学校の情報教室における学習用端末の更新等

校舎その他建築費 【予算額 2,568,017千円】

県立学校の長寿命化計画に基づく老朽化対策を実施
 ※トイレ洋式化:9校で設計、18校で改修工事を実施予定

